



少人数制

観光振興に貢献する
地方公立大学／コラム

福島県立 テクノアカデミー 会津

地方創生は地域の総力戦だ。
地域に貢献する人材の輩出という点において、
いわゆる大学等の位置づけではないが
「福島県立テクノアカデミー会津」での学びは特徴的で、
非常に興味深い。

会津盆地のちょうど中心、喜
多方市塩川町に位置する福島県
立テクノアカデミー会津は、福
島県が設置する職業能力開発施
設である。学校教育法に基づく
大学、短大（文部科学省系）とは
異なり、職業能力開発促進法に
基づく教育訓練施設（厚生労働
省系）である。本校の前身である
会津高等技術専門学校を改組し、
2010年4月、短期大学校を
併せ持つ総合的な職業能力開発

機関として「テクノアカデミー
会津」が誕生した。
設置科は、短期大学校として
は新設の観光プロデュース学科
1科のみ、従来からの普通職業
訓練の課程として電気配管設備
科、自動車整備科の2科があり、
いずれも修業年限は2年であ
る。各科とも定員20名（電気配管
設備科は30名）の少人数制によ
り、一人ひとりに寄り添った指
導を行っている。

観光プロデュース学科
設立以前の経緯

ものづくり・製造等の人材育
成が主眼である学卒者訓練にあ
って、本県が独自に観光系の科
を設置した経緯としては、やは
り会津を中心に「観光」が基幹産
業として着目されていたことが
挙げられる。前身校の時代にお
いても、リゾート法による開発
が盛んに行われていた1991
年4月、会津磐梯エリアの宿泊
業従事者を養成するため新設し
た高卒1年課程「観光ビジネス
科」を皮切りに、2001年4月
には宿泊需要の多様化、高度化
に対応するため2年課程「観光
サービス科」へと拡充、その時ど
きに応じた観光人材育成に取り
組んできた。

観光プロデュース学科
の特長

観光プロデュース学科では、
短大校以前より養成してきた旅
館・ホテル等で求められる接客
サービス技術に加え、観光商品
の開発・販売イベントの企画な
ど観光産業を総合的にプロデュ
ースできる人材の育成を目指し
ている。



フィールドワーク（鶴ヶ城）

カリキュラムとしては、1年次においてサービスやビジネスの基礎となる知識及び技術を習得し、2年次において地域課題に対応した観光企画の提案やビジネスを実践する技術を習得する。教育の柱として、次の3つを掲げている。

① プロデュース

多様なフィールドワークにより地域資源や文化を学ぶとともに、経営・会計等のビジネススキルを習得する。

また、関係団体等と連携して、学生によるツアー・イベント等の企画やPR動画・WEBサイト作成等ICT機器を活用した実践的なプロデュース技術を身に付ける。

② コミュニケーション

外国人旅行客に対応できる会話力を身に付けるため、英語（ダブルティーチング形式）、韓国語、中国語の3つの言語をネイティブの先生から実践的に学ぶ。

また、海外研修では現地旅行会社を訪問して、学生自身が考えた福島の旅行プランを提案する。

③ ホスピタリティ

サービスの現場では、お客様のニーズを正しく理解して臨機

応変に対応する「おもてなしの心」ホスピタリティが重要であり、その基礎となる他者理解、ビジネスマナーはもちろん、日本文化に根付いた作法（茶道等）やレストランサービス等の実践技術を習得し、幅広い対応力を身に付ける。

現地で学ぶ／ フィールドワークの 充実

カリキュラムの大きな特長として、フィールドワークの充実が挙げられる。日々変化する地域観光の現場に直接出向き、校内では習得することが難しい知識や技術を身に付けることを目的として、2年間で50日に及ぶ日数を校外での実習に充てている。

まずは身近な地域の学習からはじまり、観光イベントへの企画参加、企業での実習（インターシップ）、巨大市場であるアジア方面での海外研修など、様々な観光現場での経験を通じて、「地域資源の魅力を感じ、その商品化を考え、発信し、売り出していくことのできる人材育成」に取り組んでいる。



学生と訪ねる旅（土湯）

地域に根差した 特徴ある実習

本学科のカリキュラムは、地域の方々との連携や協力の下で成り立っており、特徴ある実習をいくつかご紹介したい。

① 地元公民館主催 「学生と訪ねる旅」

ツアー企画のノウハウを実践的に習得する実習として、地元の塩川公民館主催「学生と訪ねる旅」の企画及び案内を実施している。

地元住民をターゲット顧客として、満足のいく日帰りバス研修について旅行先の選定から企画の手配までを学生自身の手で



籠太実習

② 喜多方市小田付地区 まちづくり活動への参画

歴史ある蔵の街並みにより
「重要伝統的建造物群保存地区」

行い、ツアー当日は自分たちが
実際に案内することにより、総
合的なプロデュース能力の向
上を目指している。

参加者からは毎年高い評価
をいただいている人気企画と
なっている。

に選定された喜多方市小田付地
区。その素晴らしい財産を分か
りやすく伝える案内標識を皆で
作り上げるプロジェクトに本校
学生が参画している。標識デザ
インのヒントとなるような、建
物や暮らしに関する思い出やエ
ピソードを調査するため、プロ
のライターの方から取材手法に
ついて指導いただくとともに、
地域住民にリポートも活用した
ヒアリング調査を行った。

③ 口コミ高評価店で 成功の秘訣を学ぶ

観光において「食」の魅力は不
可欠であることから、口コミサ
イト高評価の地元人気店「郷土
料理・籠太」に実際に赴き、その
ノウハウを学ぶ特別授業を行っ
ている。

本校設立時の学科長で、非常
勤講師の菅原由美子氏が会津に
繰り返し訪れる中で、いわゆる
チェーン店でない個人経営の魅
力ある飲食店が多数存在するこ
とに魅了され、「居酒屋学」を提
唱したことから始まったユニー
クな研修で、その模様は地元テ
レビでも紹介された。

カウンター越しのご主人から
店舗オペレーションの極意を伺
ったり、契約農家の畑に向い
て地場食材の魅力を理解するこ
とで、魅力ある店舗を運営して
いくために必要なスキルや考え
方を実践的に学ぶことが出来る
密度の高い実習となっている。

コロナ禍において 求められる取組

本県観光は、原発事故による
風評被害からの脱却を目指し、
徐々に旅行客数の回復が図られ
てきたところであるが、今般の

新型コロナウイルス感染症の影
響により、業界は再び苦境に陥
っている状況にある。

そのような中、本学科ではコ
ロナ禍において特に求められる
技能として、①当面直接来られ
ない方々へのPR手法としてデ
ジタル技術（VRなど）を駆使し
た情報発信技術、②マイクロツ
ーリズム（土地勘のある住民に
よる近距離旅行）の旅行者を満
足させられるだけの地域への深
い理解に基づいた観光企画技術
の2点を掲げ、デジタル・アナロ
グ双方の能力向上を図っていく
こととしており、県の重点事業
も取り入れて、これらの技能を
習得するための機器整備やカリ
キュラムの充実を図っていくこ
ととしている。

おわりに

本学科は今年で設立12年目を
迎え、卒業生は1期生から今春卒
業した10期生まで、全員就職を達
成している。その就職先は、県内
の旅行交通・宿泊業はもとより、
地域の観光団体のほか、飲食・食
品製造業など多岐に渡っており、
責任あるポジションで活躍する
人材も育ってきている。

一方、会津地域の少子化が顕
著となる中、ここ数年は定員割

れが続く状況が続いており、地
域で求められる人材を地元で育
てていく難しさも露呈してきて
いる。本学科の特長や課題を見
据え、不断に改善していくこと
で、新型コロナウイルスをはじめとした
逆境下においても力強く「観光
ふくしま」を牽引していくこと
のできる人材の育成に努めてい
きたい。

小泉大輔（こいずみ だいすけ）



福島県立テクノアカ
デミー会津観光ブ
ロアユース学科教務
主任。茨城県水戸市
出身。立教大学経済
学部・社会学部観光
学科・清尾ゼミナールにも所属。／早
稲田大学芸術学校都市デザイン科卒
業。都市計画コンサルタントを経て長
野県の飯山市観光協会に勤務し着地
型旅行業の立ち上げ、観光局設立等
の業務に携わる。東日本大震災直後
の2011年4月、福島県に移りテクノ
アカデミー会津に着任、2016年
より現職。

学科清尾ゼミナールにも所属。／早
稲田大学芸術学校都市デザイン科卒
業。都市計画コンサルタントを経て長
野県の飯山市観光協会に勤務し着地
型旅行業の立ち上げ、観光局設立等
の業務に携わる。東日本大震災直後
の2011年4月、福島県に移りテクノ
アカデミー会津に着任、2016年
より現職。